

レビュー×レビュー

飛翔編集委員おすすめの本や映画などを紹介
読書、芸術の秋のお供にいかがですか？



『エスパー魔美』 藤子不二雄
(26生 前田絵礼奈)

学生諸君に贈る一冊。大きなカステラを一人で切り分けて食べるというのは孤独の極致ですからねえ。秘密機関福猫飯店。鴨川デルタ。時計台。三畳紀からジュラ紀白亜紀を経て四畳半紀に至る。明石さん素敵。幻の至宝と言われる「薔薇色のキャンパスライフ」を夢見る主人公は有り得べき別の可能性を求めてループし、広大無辺の四畳半世界を彷徨う。その果てに何を見るのか。小津は妖怪のごとく跳梁し、黒髪の乙女、糺の森の猫ラーメン、木屋町の具眼の老婆、正体不明の八回生樋口師匠。湯浅政明監督のアニメ版もナンタラ大賞を受賞した名作ですので併せてどうぞ。「また阿呆なものを作りましたね」僕なりの愛です。

80年代に放送されていたテレビアニメで、マンガとしても連載されていた作品です。話の内容は、主人公であるごく普通の女子高生佐倉魔美が、同級生の高畑和夫を思わず助けたことから、自分がエスパーであることに気づきます。自らの超能力を高めていく魔美は、その能力を人助けのために活用します。ほとんどが各話完結型の心温まるストーリーになっていて、子供向けのアニメではあるのですが映画化もされた作品で年代を問わず楽しめます。私は小学校時代に見ていたのですが、今でもたまに思い出して見たい衝動に駆られます。皆さんも「エスパー魔美」の独特な世界観を味わってみてはどうでしょうか？



『四畳半神話大系』 森見登美彦 (26生 柴山真一)

原爆投下により夫を失った悦子。戦後間もない長崎で娘と二人、苦悩ある生活を送っていました。そんな中で悦子は、軍人であるイギリス人との交際を機に結婚し、イギリスへの移住を決意します。しかし渡英したのちに待ち受けていたのは、最愛なる娘の自殺という直面し難い出来事でした。喪失感の中で悦子は、とある親子とのやり取りを主に、長崎での生活を回想します。英作家であるカズオ・イシグロの描く、復興途中の長崎で過ごす人々の言動と心情が、当時の様子を物語ります。



『遠い山なみの光』 カズオイシグロ
(26生 竹内音寧)



『聲の形』 大今良時

(26生 岡田菜緒)

健全者ばかりのクラスに転校してきた耳の聞こえない女の子と、その女の子をいじめる男の子がこの本の主人公です。小学生のころいじめっ子だった男の子はクラスメイトとよく「度胸試し」と称し橋から川に飛び込むなどやんちゃばかり繰り返していました。そんな男の子にとって耳の聞こえない女の子はいじめの対象にしか映らなかったのです。しかしつか報いはやってきます。いじめっ子は逆にいじめの対象になりクラスでも浮いた存在になってしまいました。そんな時主人公を一番気にかけてくれたのはいじめていた耳の聞こえない女の子でした。その後女の子は転校してしまうが時を経て高校生になった二人はまた再び巡りあい、二人の物語が動き出します。人と人とが通じ合う難しさと尊さを描いたストーリーです。



『レ・ミゼラブル』 トム・フーパー

(26生 関よしの)

「木を植える それはつぐなうこと
私たちが根こそぎにしたものを」

こんな一節から始まる谷川氏の詩がこの本の冒頭に登場し、木について様々なことが語られます。緑が減ってきたこと、緑をテーマにした人気店があること、子どもが木と触れ合う機会について、人と木の関係などなど。興味がある人でなければ深く考えない自然について、考えさせられるような一冊だと思います。個人的には、植樹活動についての部分を読んで、参加したくなりました。この本との出会いが、私を一つの活動への参加へ導くかもしれません。

冒頭の詩は心にすっと入ってきました。九十ページほどの本なので、読むのが苦ではないです。自分の視点を広げる手助けになるかもしれません。詩に添えられているイラストも素敵です。いつもとは一味違う本を読みたい人、どうも本が苦手な人、もちろん木に興味がある人にもおすすめです。

文豪ヴィクトル・ユゴーの小説を基に、世界各国でロングラン上演されてきたミュージカルを映画化したものです。格差と貧困にあえぐ民衆が自由を求めて立ちあがろうとしていた一九世紀フランスで、貧しさからパンを盗み投獄された男ジャン・バルジャンの波乱に満ちた生涯を描いた作品です。台詞の全てが歌であるため、歌だからこそ表現できるその独特の世界観にいつの間にか魅入ってしまいました。全てのキャストの、感情が溢れ出したような歌声に心を動かされます。鮮烈な印象を残す『民衆の歌』は、自由で平等な社会の実現を迫力あるオーケストラのような希望に満ちた歌声で表現しています。聞いた時に、感動と興奮の涙が止まりませんでした。

ミュージカルが好きな人にも、愛や自由について考えたいという人にも、誰にでもおすすめできる映画です。ぜひご覧ください！



『いのちの木を植える』 岡田卓也×谷川俊太郎
マガジンハウス (26生 網野瑞貴)

広島大学が発行している
 「大学新生に薦める 101 冊の本」に選ばれた
 一冊。初版発行は地球温暖化防止京都会議開催
 前の 1997 年 11 月です。そのため、最新のデー
 タをふまえた内容ではないものの、本書で佐和
 が提唱する「持続可能な経済システムへの早急
 な転換」は現在もお求められています。地球
 温暖化問題への入門書としてはもちろん、
 温暖化対策と経済活動の両立について
 興味がある方にお勧めです。



シリーズ物のうちの一つなのですが、ドリフトならば舞台は日本、という意気込みが気に入りました。ただ、ネット上のレビューはボロっカス。あの荒れ様、映画よりレビューの方が面白いくらいです。確かに、役者も設定も野暮ったいし、お世辞じゃないけど内容も無い。でも私は、この映画にそういうものを求めるのがいけないと思います(笑)だってこれはどう考えても、ドリフト主体のカーアクションと Teriyaki Boyz の名曲のためだけに作られたものでしょ！マシンのスマートでセクシーなお尻達と、Tokyo Drift の妙なテンションにハマった人だけが、最高に気持ちよくなる。

そんな実はどうしようもない、だけどツボな作品でした。
 Fast & Furious!



隣に座った女性は、よく図書館で見かけるあの
 人だった……。片道わずか一五分のローカル線で起
 きる小さな奇跡の数々。乗り合わせただけの乗客の人生が少しずつ
 交差し、やがて温かな物語が紡がれる。恋の始まり、別れの兆し、途中
 下車——人数分のドラマを乗せた電車はどこまでもは続かない線路を走っ
 ていく。ほっこり胸がキュンとする長篇小説。

明日からきつと、何気ないひとつひとつの出会いが愛おしくなる。自分の
 周りに転がっている小さな幸せに、ふっと気づけるような物語です。

ちょっと疲れたな、ほっこり癒されたい。そんな人におすすめ
 の一冊。